

## 【企業動向調査（製造業）概況】

2022年10月～12月期の企業動向調査（市内製造業98社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲4.7ポイントとなりました。

前期調査結果（2022年7月～9月期：0.0ポイント）と比較して4.7ポイント悪化しました。

その他経営上の問題は、「材料費の継続的上昇および納期遅延のより従来のやり方を変えなければならぬ状況になってきていると感じている。ただ、具体的な施策が見えてこない。」「半導体関連の生産が悪化。これに加えて、電気料が今年の1.5倍と上昇、4月以降さらに上昇。収益確保が難しい状況下。」「電気代の高騰に苦慮している。いまだに購入部材、支給部材の欠品が続いている為、納期順延し納期が定まらず売上が上がらない。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」、「金属」がプラスポイント、「木材家具」は0.0ポイント、「一般機械」、「電気機械」、「その他業種」はマイナスポイントとなりました。

### 業種別の業況判断前期比D I

食品	25.0	（前期比：マイナス	8.3）
金属	6.2	（前期比：プラス	6.2）
一般機械	▲18.2	（前期比：マイナス	18.2）
電気機械	▲18.2	（前期比：マイナス	2.8）
木材家具	0.0	（前期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	▲13.3	（前期比：マイナス	7.1）

2. 次期予想D I（2023年1月～3月）

次期予想の平均は▲26.1ポイントで、今期調査結果の平均(▲4.7)より、21.4ポイント下回る予想となりました。

### 業種別の次期予想D I

食品	0.0	（今期比：マイナス	25.0）
金属	▲37.5	（今期比：マイナス	43.7）
一般機械	▲9.1	（今期比：プラス	9.1）
電気機械	▲45.4	（今期比：マイナス	27.2）
木材家具	▲50.0	（今期比：マイナス	50.0）
その他業種	▲20.0	（今期比：マイナス	6.7）

3. 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が81.5%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が47.7%、「受注の減少」が41.5%、「労働力不足（量的なもの）」が24.6%、「技術力の不足」が15.4%、「納期の短縮」が12.3%、「同業他社との競争激化」が10.8%、「金融難」と「為替相場の変動」が6.2%、「人員過剰」が4.6%、「製品販売価格の低下」が3.1%、「取引先の海外シフト化」が1.5%となっております。

# 企業動向調査

## 【2022年10月～12月期 <4期>】

### 【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2022年10月～12月期<4期>の業況について調査した。

### 【調査実施要領】

実施時期 2023年1月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 98社

回答企業数 65社（回答率 66.3%）

### 【調査結果】

自社業況判断（D I = 好転－悪化）

前期比：「好転」21.5%（前回23.0%）、「悪化」26.2%（前回23.0%）という割合でD Iは▲4.7となり、4.7ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」21.5%（前回23.0%）、「悪化」33.8%（前回28.4%）という割合でD Iは▲12.3となり、6.9ポイント悪化した。

次期予想：「好転」10.8%、「悪化」36.9%という割合でD Iは▲26.1（前回▲12.1）となり、前期より悪化を予想している。

受注引合（D I = 増加－減少）

前期比：「増加」20.6%（前回23.0%）、「減少」28.6%（前回27.0%）という割合でD Iは▲8.0となり、4.0ポイント減少した。

前年同期比：「増加」26.2%（前回21.3%）、「減少」29.2%（前回29.3%）という割合でD Iは▲3.0となり、5.0ポイント増加した。

次期予想：「増加」10.8%、「減少」35.4%という割合でD Iは▲24.6（前回▲9.4）となり前期より減少を予想している。

生産量（D I = 増加－減少）

前期比：「増加」17.5%（前回22.2%）、「減少」27.0%（前回22.2%）という割合でD Iは▲9.5となり、9.5ポイント減少した。

前年同期比：「増加」22.2%（前回18.1%）、「減少」38.1%（前回29.2%）という割合でD Iは▲15.9となり、4.8ポイント減少した。

次期予想：「増加」7.9%、「減少」34.9%という割合でD Iは▲27.0（前回▲12.5）となり、前期より減少を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」1.6% (前回1.4%)、「上昇」73.4% (前回78.1%) という割合でD Iは▲71.8となり、4.9ポイント低下した。

前年同期比：「低下」1.6% (前回1.4%)、「上昇」87.5% (前回91.8%) という割合でD Iは▲85.9となり、4.5ポイント低下した。

次期予想：「低下」1.6%、「上昇」57.8%という割合でD Iは▲56.2 (前回▲69.4)となり、前期より原材料・仕入単価の低下を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」26.6% (前回29.7%)、「低下」3.1% (前回5.4%) という割合でD Iは23.5となり、0.8ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」45.3% (前回48.6%)、「低下」4.7% (前回4.1%) という割合でD Iは40.6となり、3.9ポイント低下した。

次期予想：「上昇」31.3%、「低下」6.3%という割合でD Iは25.0 (前回21.6)となり、前期より製品販売価格の若干の上昇を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」1.6% (前回6.8%)、「悪化」19.0% (前回20.3%) という割合でD Iは▲17.4となり、3.9ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」4.8% (前回5.4%)、「悪化」23.8% (前回25.7%) という割合でD Iは▲19.0となり、1.3ポイント好転した。

次期予想：「好転」3.2%、「悪化」22.2%という割合でD Iは▲19.0 (前回▲18.9)となり、前期より資金繰りの若干の悪化を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」7.7% (前回12.2%)、「減少」35.4% (前回24.3%) という割合でD Iは▲27.7となり、15.6ポイント減少した。

前年同期比：「増加」7.7% (前回14.9%)、「減少」32.3% (前回24.3%) という割合でD Iは▲24.6となり15.2ポイント減少した。

次期予想：「増加」6.2%、「減少」26.2%という割合でD Iは▲20.0 (前回▲6.7)となり前期より労働時間の減少を予想している。

収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」8.1% (前回12.3%)、「低下」41.9% (前回37.0%) という割合でD Iは▲33.8となり、9.1ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」9.7% (前回13.7%)、「低下」51.6% (前回49.3%) という割合でD Iは▲41.9となり、6.3ポイント低下した。

次期予想：「上昇」8.1%、「低下」35.5%という割合でD Iは▲27.4 (前回▲38.3)となり、前期より収益率の上昇を予想している。

## 経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 81.5%)
2位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 47.7%)
3位	受注の減少	(→ 41.5%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(→ 24.6%)
5位	技術力の不足	(→ 15.4%)
6位	納期の短縮	(↓ 12.3%)
7位	同業他社との競争激化	(↑ 10.8%)
8位	金融難	(↑ 6.2%)
8位	為替相場の変動	(↓ 6.2%)
10位	人員過剰	(↑ 4.6%)
11位	製品販売価格の低下	(↓ 3.1%)
12位	取引先の海外シフト化	(→ 1.5%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし  
「↓」 前回の順位から下降

## 業種別自社業況判断／食品

前期比：「好転」37.5%（前回44.4%）、「悪化」12.5%（前回11.1%）という割合でD Iは25.0となり、8.3ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」37.5%（前回44.4%）、「悪化」25.0%（前回0.0%）という割合でD Iは12.5となり、31.9ポイント悪化した。

次期予想：「好転」25.0%、「悪化」25.0%という割合でD Iは0.0（前回11.1）となり前期より悪化を予想している。

## 業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「好転」12.5%（前回23.5%）、「悪化」6.3%（前回23.5%）という割合でD Iは6.2となり6.2ポイント好転した。

前年同期比：「好転」18.8%（前回23.5%）、「悪化」18.8%（前回35.3%）という割合でD Iは0.0となり、11.8ポイント好転した。

次期予想：「好転」6.3%、「悪化」43.8%という割合でD Iは▲37.5（前回▲11.7）となり、前期より悪化を予想している。

## 業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「好転」18.2%（前回21.4%）、「悪化」36.4%（前回21.4%）という割合でD Iは▲18.2となり、18.2ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」18.2%（前回21.4%）、「悪化」36.4%（前回28.6%）という割合でD Iは▲18.2となり、11.0ポイント悪化した。

次期予想：「好転」9.1%、「悪化」18.2%という割合でD Iは▲9.1（前回▲14.3）となり前期より好転を予想している。

## 業種別自社業況判断／電気機械

前 期 比：「好転」18.2%（前回15.4%）、「悪化」36.4%（前回30.8%）という割合でDIは▲18.2となり、2.8ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」18.2%（前回23.1%）、「悪化」63.6%（前回46.2%）という割合でDIは▲45.4となり、22.3ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」9.1%、「悪化」54.5%という割合でDIは▲45.4（前回▲38.4）となり前期より悪化を予想している。

## 業種別自社業況判断／木材家具

前 期 比：「好転」50.0%（前回20.0%）、「悪化」50.0%（前回20.0%）という割合でDIは0.0となり、0.0ポイントとなり、変わらない。

前年同期比：「好転」25.0%（前回20.0%）、「悪化」50.0%（前回20.0%）という割合でDIは▲25.0となり、25.0ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」0.0%、「悪化」50.0%という割合でDIは▲50.0（前回▲20.0）となり、前期より悪化を予想している。

Q10 12月14日日銀松本支店発表「企業短期経済観測調査(短観)」によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(9月)と横ばいのプラス7となりました。製造業のDIは原材料上昇などで、プラス5と7ポイント悪化しましたが、非製造業のDIは、10ポイント改善のプラス11となりました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「変わらない」38.5%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」26.2%、「悪化している」18.5%、「今はないが、今後好転が見込まれる」7.7%、「無回答」6.2%、「好転している」3.1%。

Q11 賃上げを実施する予定はありますか。

A 「ある」38.5%、「検討中」36.9%、「なし」20.0%、「無回答」4.6%。

Q12 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「採用力強化と人材育成。高付加価値経営(DX・デジタルを活用した仕事のプロセス変革、生産性向上の取り組み。」、「中途、新卒を問わず離職率が高く、思うように人材育成を進めることができない。」、「原料資材の値上げに加えて、電力、ガス料金的大幅な値上げが、収益の悪化に繋がっている。」、「部材の入手難が続いており、また長納期化の影響で棚卸残高が大幅に増加している。」、「原材料(仕入)価格の上昇が小康状態になり、販売価格への転嫁も一回りして、今後収益率の精査が出来そうな段階に落ち着いており、コロナ前の水準に持ち直してい

るかが問題である中、本年度の色々な経済動向に対応できるかが課題。」、「人材不足と採用とその対策。半導体・部品不足起因の客先生産調整による受注への影響。」、「物の不足による設備投資の遅延。」、「製造業に関してですが、仕事量が増え大変忙しく作業をしておりますが、全く利益に繋がらない。光熱費や部材費の高騰さらに賃上げなどがあり、逆に赤字となってしまう。取引先と単価交渉しますが、なかなか難しく、話が進まない状況です。このままだと経営していく事が難しい。」、「イオンモールの完成及び市内各社の新工場稼働による働き手の取り合い、労働者不足が懸念される。」、「ガソリン、光熱費、原材料の値上がりが続く、この先もまだ続く。賃上げはしたいが製品単価が上がらず、賃上げの話ばかりで、製品単価を上げるから賃金を上げるという話は聞こえてこない。おかしいと思う。」、「事業継承・労働力不足、仕入れ値上昇。」、「賃上げを行うことは前向きでいるが継続することは難しい！少々の賃上げでは増税に負けて意味がない。国の「賃上げお願い」は責任放棄に近いと思う！しっかりとした政策を打ち出してほしい。」、「受注が品種により偏りがあり、かつ不安定があるので、人のやりくりが難しい。」、「高卒採用が、応募少なく、給与ベースを上げない、他社との競争の土俵に上がれないので、ベースアップを検討しないといけない。」、「原材料価格や光熱費の高騰でたいへん苦慮しております。」、「人員募集をしてもなかなか応募がない。」等。











